2010 年 9 月 27 日

理工学部長　岩崎日出男 先生
機械工学科学科長　木原利喜 先生
機械工学科教員各位

淺野和典

在外研究報告（第１回）

前略　先生方におかれましては JABEE 実地審査の準備などでたいへんご多忙のこととお察しいたします。このような時に在外研究の機会をいただき、まことにありがとうございます。予定通りにシェフィールドには９月に着きましたが、生活の準備などがなかなか落ち着かず、報告が遅くなりましたことをお詫びいたします。

１年間の在外研究では、Panos Tsakiropoulos 教授の研究室で、航空機エンジンの材料としての適用が期待されるニオブ基の耐熱複合材料に関する研究を行います。先に述べたように、生活の準備に時間をとられてしまったことと、９月に新年度がスタートし、教授が多忙だったこともあり、つい先日、教授と１回目の簡単な打ち合わせをしたばかりです。具体的な研究内容はこれから打ち合わせを重ねていきながら決めていく予定ですが、これまでの研究背景の把握あたりから始めることになりそうです。

シェフィールドはロンドン、バーミンガム、マンチェスターに次ぐイギリスで４番目に大きい都市で、中心部は活気にあふれており、その周りは住宅街に囲まれています（写真は市内中心部にあるタウンホールと噴水）。私の住んでいるところもそうですが、住宅街には急な坂道も多く、長距離を歩くのは結構たいへんです。坂道が多い点は、日本で住んでいた生駒の様子と似ていますが、こちらの家はテラスハウスが多く、築100年ほどのものが多いです（私の住んでいるところもその１つです）。住宅街の道路は路上駐車し



ていることが多いので、大きい車は通りにくいです。レンタカーは新生活に必要な荷物の運搬があったので少し大きめのものを借りましたが、日常使う車は少しコンパクトな方がいいなとこのとき思いました。買ったものを手早くレンタカーに積むために、店近くに路上駐車していたら、早速駐車違反の切符を切られてしまいました。日本では車の運転で１回もルール違反はしませんでしたが、こちらへ来て数日でやってしまいました。道端に黄色の線が１本引いていたところに止めていました。ここに駐車していた車が他にあったので、止めてもいいのかと思って駐車していましたが、ここは身体障害者のみが駐車可能なことを後で知りました。罰金は£70（１万円弱）でしたが、早く払えば半額になるというので、数日後に£35を支払いました。

シェフィールド大学は、1905年設立の大学で、約130カ国から来た24,000名以上の学生が在籍し、スタッフは約6,000名在籍しています。イギリスの他大学と比べても産学連携には特に力を入れているようで、留学中に私が行う研究もロールスロイス社との共同研究の一環とのことです。キャンパスは市内中心部に隣接（点在？）しており、いろいろな店やレストランが近くに多くあります。またバスやトラムも走っているので、アクセスも便利です。大学構内では中国語が結構飛び交っていますが、日本人はあまり見かけません(先日も構内を歩いていたら、中国語で話しかけられました）。



今回お世話になったのは、Department of Engineering Materialsです（写真）。建物の下部で床面積の広くなっているフロアに金属溶解炉などの主要な実験装置が多く設置されています。同室のドクターコースの学生（あるいはポスドク）十数名のうち、イギリス人は３名で、あとは中国人３名、インド人２名の他、スリランカ、メキシコ、リビア、タイ、ギリシャ、インドネシア、などさすがに国際色豊かです。

９月の３週目は１週間にわたり、企業の技術者向けに材料の基礎と実践に関する教育プログラムが学科で開講されました（写真はその１風景）。こちらの先生がどのよう



な講義をするのか興味がありましたし、英語の勉強にもなると思い、参加させていただきましたが、既知の内容が多かったことと、生活の準備で忙しかったこともあり、結局まじめに受講したのは最初の２日ぐらいでした。20日から新入生のオリエンテーションがあり、構内もにぎやかになってきました。学科には60名あまりの新入生が入学したようです。専門分野は違いますが、学科には日本人の先生もおられるので、わからないことがあれば頼りにしたいと思います。

まとまりのない文章で恐縮ですが、今後も定期的に報告させていただく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

草々